

[課程一2]

審査の結果の要旨

氏名 雨宮 薫

本実験は、音楽の構造認知の判断に影響を与える要因について検討した。実験 1 では、メロディの大局的な予期について、音楽訓練の差が与える影響について検討し、実験 2~3 において、逸脱刺激と頻度の影響を検討し、実験 4 において、メロディの予期に対する処理過程について検討した。

実験 1

音楽家、非音楽家ともに、メロディの局所的な情報だけでなく、全体的な流れによって終止感判断をしていることが示された。また、たとえ行動学的な差異が認められない場合においても、訓練により異なる処理過程によってメロディを聴取していた可能性を示唆した。

実験 2

メロディからの逸脱音が逸脱刺激となるのか、刺激要素として低頻度なものが、プロトタイプとはなりえないのかを検討した結果、たとえメロディとして逸脱していなくても、短期的な記憶痕跡が聴取時の磁場応答に影響を及ぼす可能性を示唆した。

実験 3

逸脱刺激における短期的な親和性によっても、聴取時の磁場応答に影響を受ける可能性を示唆した。

実験 4

短期的な親和性や頻度を統制した結果、主和音、非主和音に対して異なる磁場応答が認められた。また、最終音を欠落させた場合における誘発応答から、リズムだけでなく、音楽構造に対する予期が頑強である可能性を示唆した。

以上の実験により、ヒトの音楽構造の認知には、短期記憶痕跡の影響が強く影響していると同時に、長期記憶の知識も影響することが示唆された。また、音楽構造の認知はさらに訓練によって、その処理過程が変化していく可能性も示唆する結果となった。音に対する情報処理様式の可塑的な変化や、学習効果のおよぼす影響を示唆している可能性を示唆

する, 重要な貢献をなすと考えられ, 学位の授与に値するものと考えられる.